

スポーツ・武道実践科学系

氏名

はま だ はつ ゆき
濱 田 初 幸

教授



主な研究テーマ

- 「柔道における競技力向上論・指導法の構築」「障がい者を対象とした柔道療法の研究」
- 「武道国際化における課題と対策」「体と健康に関する研究」

平成30年度の研究内容とその成果

柔道の国際化における課題と対策及び競技力向上・普及発展、指導法の構築に関する研究を行いました。国内および海外から多くの柔道家を受け入れ、柔道指導に関する講義や国際交流を行いました。また、指導者として各国に招聘され、日本の伝統的な基本技術を中心に応用技術までの指導を実施しました。

体と健康、知的障がい者を対象とした柔道療法に関する学会発表等を実施し、柔道を通して社会貢献活動を行いました。さらに、武道必修化に向けた指導者講習会、わかりやすい柔道授業を行うための教材作成も試みました（初転君柔道衣およびシート・トライアングルセオリーシート）。

柔道指導・研究調査活動

- 1) 肝属地区柔道会において、指導者を対象に審判講習会、強化指導部長として活動
- 2) 青少年柔道育成大会「日の丸柔道キッズ」にて実技指導
- 3) フランス柔道連盟ツールーズ柔道クラ

ブ指導者2名及びマルセイユ指導者4名を受け入れ、国際交流活動

- 4) ドイツ柔道連盟からEUを中心とした国際合宿（ベルリン・リンダウ）に招聘され、実技指導を行い、武道の国際的普及発展に寄与することができた。
- 5) 肝付町高山やぶさめ祭奉納柔道大会・鹿屋市少年柔道学年別選手権大会・鹿屋市市長旗柔道大会を運営し、学生を審判・補助係員として派遣
- 6) 大隅地区柔道会主催錬成会及び近隣少年柔道クラブでの指導
- 7) 日本武道一般社団法人 障害者武道協会 常務理事として活動
- 8) KAPICアドバイザー委員会委員として活動
- 9) 第15回濱田初幸杯柔道大会にて講演及び講師として実技指導

学術研究論文

- 1) Synthesis of Ester-linked Taxol-glycoside Conjugate and Its Application to Drug Delivery System Using Immunoliposome Targeted with Trastuzumab and

- Cetuximab, Hiroki Hamada, Shouta Okada, Noriyoshi Masuoka, Hatsuyuki Hamada, Kei Shimoda and Katsuhiko Mikuni, *Natural Product Communications*, 13, 7, 807-808, 2018, 6(共).
- 2) Application of Racemization Process to Dynamic Resolution of (RS)-Phenylephrine to (R)-Phenylephrine β -D-Glucoside by *Nicotiana tabacum* Glucosyltransferase, Yuya Fujitaka, Daisuke Uesugi, Hatsuyuki Hamada, Hiroki Hamada, Kei Shimoda, Masayoshi Yanagi, Manami Inoue, *Natural Product Communications*, 13, 11, 1465-1466, 2018, 7(共).
- 3) Resveratrol Oligosaccharide Induces mRNA Expression for SIRT, Hiroki Hamada, Kei Shimoda, Yasukazu Saitoh, Shouta Doi, Yuya Fujitaka, Tsubasa Ono, Hatsuyuki Hamada and Minami Araki, *Natural Product Communications*, 13 (4) 455-456, 2018, 10(共).
- 4) Synthesis of ester-linked Docetaxel-glycoside Conjugate and Its Drug Delivery System using Hybrid-bio-nanocapsules Targeted with Trastuzumab and Cetuximab, Yuya Fujitaka, Hiroki Hamada, Hatsuyuki Hamada, Noriyoshi Masuoka, Kei Shimoda, *Natural Product Communications*, 14 (6), 1-3, 2019(共).
- 5) Glycosylation of Piceid and Resveratrolside by *Phytolacca americana* glucosyltransferase expressed in *Escherichia coli*, Kei Shimoda, Naoji Kubota, Yuya Fujitaka, Shouta Doi, Kohji Ishihara, Hatsuyuki Hamada and Hiroki Hamada, *Natural Product Communications*, 14 (7), 1-2, 2019(共).
- 6) 中学校体育授業における柔道の楽しさ：生徒の自由回答データの計量的分析, 日本武道学会, 51, 3, 181-189, 2019(共).
- 7) 日本人の大学生女子柔道選手における体重とFFMIならびにFMIの関係, 日本武道学会, 51, 3, 173-179, 2019(共).
- 8) 44. Int. Judo-Sommerschule(DVD), Hatsuyuki Hamada, Marko Spittka, Ralf Lippmann, Marco Selauff, DJB/KJL, 2018, 10(共)
- ### 学会発表
- 1) 柔道の太外刈に対応する片手打ち後ろ受身の効果, 日本武道学会第51回大会, 2018, 9(共).
- 2) 筋電と加速度から推定する後受身時の頭頸部筋力発揮, 日本武道学会第51回大会, 2018, 9(共).
- ### 講演活動
- 1) 愛媛県立津島高等学校創立70周年記念式典にて講演, 「陸の孤島からの挑戦 - 母校の学びを支えに -」, 2018, 11.
- ### これからの研究の展望
- 柔道初心者に対して, 「安全でわかりやすい」柔道指導方法や高度な競技力の向上

に繋がる「効果的なトレーニング，練習方法」を独自の理論で構築，柔道の普及発展に貢献していかなければならないと考えています。特に科学研究費補助金を獲得した，前回り受身学習用柔道衣「初転君」の効能を科学的に検証していきます。(柔道指導用教材・「初転君」及び「初転君シート・トライアングルシート」の開発)。

競技者あるいは世界選手権・オリンピックコーチとしての経験から学んだ「勝つ」，また「強くなる」といった観点から国際レベルで戦うことができる選手育成を目指した強化のための実践的研究も行っています。

地域の柔道会（肝属地区柔道会）と連携を図り，鹿児島国体に向けた選手強化育成，少年を対象にした「級制度」の審査システム，「障がい者柔道療法の支援」に関する共同研究を実施しています。

柔道・武道の発展を鑑み，国際性を身につけたグローバル化社会に貢献し得る人材養成を目指し，国際交流による外国チーム，選手の受け入れや海外派遣を実施していきます。

また，生涯学習の視点から「講道館柔道の形」，「知的障がい者の柔道指導方法」「中高一貫教育における武道の推進」に関する研究も着手検討中です。特に共同研究を進めている「柔道療法」は，新聞等で大々的に報道され，知的障がい者の自立支援に向けて，科学的データに基づいた検証が求められています。さらに健康に関する研究の一環として，スポーツ飲料に含まれている

成分の代謝研究から「有効成分の解明」や「骨強度に関する研究」など生理学的研究も他機関との連携を図りながら究明していきたいと考えています。大学改革の波が押し寄せている中，さらなる教育，研究の研鑽，地域及び国際貢献に寄与していかなければならないと考えています。